

今だからこそ
家庭で再確認!

東日本大震災から学ぶ

地震災害への備え

1 通信網の不通に 備え家族内で再確認

東日本大震災では、停電および回線や中継局の損壊により、固定電話や携帯電話までも長時間の不通状態が続きました。

そのため、災害時の安否確認や避難場所の連絡などに活用されるはずの「災害用伝言ダイヤル(171)」や「災害用伝言板」なども、利用できないという状況になり、大変不安な思いをしたという意見が多く聞かれました。

携帯電話や災害用伝言ダイヤルは、災害時に非常に有効な通信手段ですが、今回のように使用できない場合があります。そのため「避難場所」や「〇〇小学校」「必ず書き置きを残す」など、震災発生時の安否確認方法や集合場所などを、再度家族で話し合い確認しておくことが重要です。



2 地震に関する正しい 情報を知る

大規模停電時はすべての情報が遮断され、地震の概要や市の対応、生

活情報などの収集が非常に困難になります。

今回の震災ではNHKFMやH@!FMなどラジオ放送が大変役立つ情報収集手段となり、それを受信する乾電池式の携帯用ラジオも大変重要となりました。そのため各家庭でも、震災など非常時に備え、携帯用ラジオを常に身の回りに用意しておきましょう。



3 定期的に 生活必需品を備蓄

ライフラインの寸断により、流通が遮断された生活を送るなかでは、生活物資は大変重要なものとなりました。今回備蓄の重要性について痛感した人も多かったのではないのでしょうか。

今回の震災を教訓に、改めて食糧や生活必需品などの備蓄を心掛けましょう。

左記は、災害の時必要と思われる物資や備蓄品です。家庭での備蓄の際の参考にしましょう。

1 飲料水

家庭で必要とする量を最低限約3日分用意しておく。また給水

に使用するため、バケツやタンクも必要となります。

また、トイレ用に湯水を一晚置いておくのも有効です。

2 携帯食料

ビスケットやレトルト食品、インスタント食品など、保存期間が長く、調理不要またはお湯だけで調理できるもの。

3 懐中電灯・ラジオ

電池の買い置きも忘れずに。災害時に、電池を買い求めることは非常に困難です。手回し式の充電器や乾電池式の充電器などもあると便利です。

4 カセットコンロやボンベ

停電になると、電気を使用するIH調理器などは使用できなくなります。簡易な調理に使えるカセットコンロやその燃料を常に用意しておきましょう。

5 薬・生理用品など

いつも飲んでいる持病の薬やパンスウコウ、体温計、はさみ、かぜ薬など応急処置ができる程度の医療品。生理用品など、各家庭に合わせて必要となるもの。また、乳幼児がいる家庭では、紙オムツ、ミルク、哺乳ビンなども必要となります。

6 下着・衣料品

重ね着のできる衣類や毛布、下着類、靴下、軍手、雨具など、おもに寒さ対策ができるものを中心に備蓄しましょう。



1 早朝から給水を待つ長い行列 2 ガソリンスタンドにも多くの車 3 地区住民で協力しての炊き出し
4 緊急電話で家族の安否を確認 5 災害時情報を提供し続けたH@!FM 6 各所で配水管の破損が発生

東北地方に甚大な被害を与え大きな爪痕を残した「東日本大震災」。発生からまもなく3カ月を迎えようとしています。登米市では3月11日と4月7日の地震により2度の停電や断水が発生。通信網の遮断により、家族の安否確認や情報の入手が困難になりました。

また、飲料水や食材の確保、物資の確保のため、給水所や販売店に長蛇の列ができるなど、大規模なライフラインの断絶は市民の生活に大変な影響をもたらしました。

未だ東北地方は、大きな余震が発生する可能性が高く、引き続き警戒が必要です。

東日本大震災での体験から、今後、家族や地域で備えておくべき事などについて考えてみましょう。

4 災害時に頼りになる 地域の力



災害発生時、市では全力をあげて災害対策に取り組みます。しかし、「電話の不通」「道路や建物の損壊」「同時多発する火災」などの悪条件が重なると、十分な対応が出来ない場合があります。緊急災害の時こそ、自分たちのことは自分たちで守っていくという心がまえが必要です。

実際今回の震災では、隣近所の安否確認や被災状況の情報収集、避難所の運営など「自主防災組織」が大きな役割を果たしました。

これは、それぞれの組織ごとに防災訓練などを実施し災害に備えてきた結果だといえます。

今後も地域内のコミュニケーションを綿密に行い、定期的な訓練や話し合いに加え、地域全体が交流し、お互いの理解を深めておくことも、災害が発生した場合の備えの一つといえます。